

20周年記念誌

ふれあい

宮城県ことばを育てる親の会

「ことばの教室親の会」20周年を迎えて

親の会20周年大会実行委員長
宮城県ことばの教室親の会会長
早坂 康宏



平成元年に、宮城県ことばの教室親の会連絡協議会が再発足され、20周年を迎えることとなりました。

「ことばの教室親の会」の最大の役割は、ことばに障がいがあるために話すことやそれ以外のことにも自信をなくしてしまう子どもたちをなくすため、同じ悩みをもつ親同士、本音で語り協力し合い、心和むすばらしい場所を提供し、子どもたちの成長を支援していくことを目的とした会です。

親の会の会員は、初めは自分の子どもが一日でもはやく、ハンディがあっても社会に溶け込み、役立つ人間になって欲しいという一心で子どもを育ててきた方々で構成され、それがいつのまにか親の会を通じて、自分の子ども、自分の学校だけでなく、全体の子どものことを一生を通じ広い社会の中で考えていくことの必要性、大切さ、その願いを受け止めてもらえる支援こそが必要であることを望んでいる方達で成り立っています。

ここ10年で周りを取り巻く環境も、インターネットや携帯電話の普及により大きくライフスタイルが変わりました。大人も子どももライフサイクルの速さについていけない。学業に例えれば、読み書きそろばんから、読み書きパソコン(携帯電話)といったところでしょうか。携帯電話の普及により、昔は待つという時間が与えられていたのに、待つことが出来ずに、すぐ突発的な短絡的行動に移すいわゆるキレる子供達が増えてきているそうです。

しかし、変わらないものもあります。それは、相手に自分の意志を伝えること(コミュニケーション)です。手段は変わっても目的は変わりません。その変わらないものこそが「ことば」だと思います。ことばの教室にくる子どもたちが「ことば」を通じて気持ちを伝えられないことで、『自分はダメな人間だ』と思いこんだり、うまくいかずにイライラしたりして心理的に不安定になることをなくしたい。そして、『わたしもなかなかやるじゃないか』という自信を高めていくことが大切だと思います。子どもたちは私達の未来ですから。子どもたちの力を伸ばせるようサポートしていきたいと思います。

また、忘れてはならないことがあります。それは、貢献したきた先生方への感謝です。特に、私達親の会が、今日まで活躍してこられたのは、親の会事務局の佐藤馨先生、庄司ヨネ子先生のご支援があったからです。ことばの教室を通して、親の会にも積極的に参加し、同じ悩みをもつ親同士、本音で語り協力し合えたのも、心和むすばらしい場所を提供して頂いた先生方がいらっしやっただからだと思います。心より深く感謝申し上げます。

今後の課題は、親の会の高齢化を目の当たりにし、今までやってきたノウハウを次世代へスムーズに引き継げるようにする必要性を感じます。各学校の親の会も行事や後任問題に直面しているところもあります。いろいろな問題、悩みを相談しあい、これからも交流を深め、25年、30年と活動を続けていきたいと思っておりますので皆様方の深いご理解と、ご協力、ご支援を節にお願い申し上げます。親の会20周年の挨拶と致します。

親の会結成20周年に寄せて

元宮城県言語障害教育研究会長

仙台市立鶴谷特別支援学校長

石野 勝美



宮城県ことばを育てる親の会が結成されて、20周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。この度20周年を迎えることができましたのは、歴代の役員の皆様、そして会員の皆様の熱意とご努力の賜物と存じます。

わたしは、これまでに貴親の会の行事に何度か参加させていただきました。お知らせをいただくと、いつも当日を心待ちにしていました。そして、行事に参加して皆さんの熱意と温かさに触れる度に、初任地でお世話になった親の会の皆さんのことを思い出していました。

新任教員として勤務した県南の小学校で、わたしはことばの教室を担当しました。その学校には「ことばの教室親の会」があり、その親の会のお陰で「ことばの相談会」が開催できたこと、そして、その時の親の会の皆さんの熱い思いと温かい心を思い出すのです。

その小学校のことばの教室では、市内の幼児の教育相談もしていました。教育相談をしているうちに、他の町の幼稚園や保育所にも子どものことばのことで、心配したり悩んだりしている保護者が沢山いることが分かりました。ある時、このことを親の会の会長さんに話すと「何とかしてあげたい。」という言葉が返ってきました。そして、会長さんを始め役員の方々の強い思いで、県南地区にある3校のことばの教室親の会が共催して、幼児のことばの相談会を開催することになりました。その相談会は、3ヶ月くらいの準備を経て、無事開催されました。

後日、役員の方々が集まって相談会の反省会がありました。その時わたしは、会長さんを始め何人かの役員のお子さんが、何年も前にことばの教室を「卒業」していたことを知りました。会長さんは、「自分の子どもが卒業したから、もう関係ないという訳にはいかない。」と話してくれました。また、役員さんからの「親の会は、ことばの教室と先生たちの応援団だからね。」という言葉には、とても感激し勇気をいただきました。30年と少し前のことでした。

親の会の役割や親の会に期待されることは、時代と共に変わっていくものだと思います。しかし、貴親の会の皆さんとお付き合いさせていただき、親の会の運営と活動に携わっている方々の熱い思いと温かい心は、時代を超えて変わらないものだと実感しています。

宮城県ことばを育てる親の会が、会員の皆様の熱い思いと温かい心で、結成30周年を目指し、ますます発展されることを祈念いたします。

親の会再発足20周年を祝いて

登米市立佐沼小学校初代ことばの教室担任

和田 伸一



宮城県ことばを育てる親の会再発足20周年記念大変おめでとうございます。今日まで20年間会員各位の素晴らしい活動活躍につきましては、事務局長佐藤馨氏からいろいろとお聞き致しております。

さて、私の話は、昭和46年(1971年)4月佐沼小ことばの教室開設と同時に担任するという所までさかのぼります。私の古い記録から、初めての児童数は、入級通級合わせて25名、担任は私と千葉和子先生で、同月26日開級式を行い、即時ことばの教室PTAを組織しました。会長には親PTAの役員でもある佐藤イセ子さん。ただ会員が少ないため活動が思うように進まず同年11月8日、名称を「佐小ことばの教室親の会」として再出発、増員を図りました。それ以来、会の運営が活動的になり、親の会会報第1号発行、1月22日には濱崎健治先生の講演会開催、又会員の相互理解を深めるためのPTA学習会、翌年度には川渡小親の会との交歓会を実施。以下各年度の定着した活動を見ると会報発行(学期1回)学級PTA(存続)講演会、他校親の会交歓会など、そして昭和49年5月の総会時会長新田節子さんで会の名称を「ことばを育てる親の会」と改める。これは、ことばが急速に発達する幼児期こそ正しいことばの育成が必要との趣旨により発案した名称です。まだまだ貴重な思い出が一杯です。これからも親の会のご発展を祈念致します。

親の会結成20周年に寄せて

登米市立佐沼小学校長

佐藤 信男



県ことばの教室親の会結成20周年誠におめでとうございます。これまで「親の会」を維持・継続させるために役員・事務局の大変なご苦勞があったと伺っております。改めて敬意を表する次第です。

さて、佐沼小学校の「ことばの教室親の会」は、「ことばの教室」開設の翌年、昭和47年に発足し、今年で38年目になります。当時の親の会会員数は、60名で活発な援助活動や交流活動を行っていたということです。

今年の1月に本校で「ことばの教室研修会」が開催されました。その際、講師としてお招きいたしました佐藤馨先生から「県親の会の経緯と主な事業」の資料を頂戴いたしました。それによりますと、平成6年～7年度の2ヶ年間、県親の会会長として佐沼小学校の佐藤美栄子さんが就任しておられ、さらに、平成16年から4ヶ年間、鈴木あけみさんが会長を務めておられることがわかりました。これらのことから佐沼小学校ことばの教室親の会の充実ぶりが想像できます。

県親の会の充実を支えるのは、地区の親の会の充実だろうと考えます。学校のことばの教室を陰で支え、地道に努力している親の会に心から感謝申し上げますと共に貴会の一層の充実・発展を祈念申し上げます。お祝いのことばといたします。

県親の会の再発足とその経過

宮城県ことばを育てる親の会事務局長

佐藤 馨



宮城県の「ことばの教室」は、故濱崎健治先生の、なみなみならぬ努力で、昭和33年に、当時の文部省から日本で初めて認可され、仙台の通町小学校に開設されました。県の親の会も、37年に組織され、東北6県の組織も昭和40年に出来、仙台を中心に活動していました。

当時は、教室が通町小学校だけだったので、教室の設置運動を濱崎先生を先頭に親の会が中心になって、各方面(仙台・県の教育委員会や議会、国会議員等)へ請願や陳情を行い、昭和49年以降どんどん教室が増えました。

しかし、担任の先生も頻繁に代わるようになり、ことばの教室単独の親の会も、55年の理事会を最後に自然消滅してしまいました。

県親の会再発足のきっかけは、地区の行事である研修旅行先で、情報交換をしている中で「年1回位このような機会がほしいね」という話が持ち上がり、各地区(鳴子・岩出山・中新田・古川・佐沼・河北)の親の会から、4名(会長、副会長、担任)ずつ集まって頂き、全員から賛同を得て、平成元年12月16日に再設立総会を古川第一小学校で行い6つの親の会で県組織を結成しました。

活動内容は、詳しく次項以降に述べますが、現在では、幹事会(2~3回)(総会1回)親子交流会(1泊か日帰りか1回)教育相談会・福祉相談会(全国からの補助事業)等を行っています。

総会では、必ず講演会を行い、会員から称賛されております。また、全国ことばを育む会の組織にも、平成4年度から加入し、東北・全国代表者会議にも出席し、東北の各県や全国の活動の様子・動き等々の情報を得、大変役立っています。

その様子は、全国ことばを育む親の会発行の「ことば」に詳しく記されていますが、ことばの教室は、長い間特殊学級として位置づけられていたものを平成5年より、長年の念願であった「通級による指導教室」として認められ、在籍に関係なく指導を受けられるようになった。また、平成19年に、「特別支援教育」が実施され、心から歓迎しているところですが、まだまだ問題点があるようです。

全国ことばを育む親の会では、子ども達のために、より良い制度になるよう、「文科省」等に交渉しております。現在の県の親の会は、本当に小規模な組織ではありますが、色々な活動を通しながら、子どもを真ん中に親と教師の三人四脚で、連携を密にし、信頼関係を高め、この教育の効果を高めるよう努力していきたいと思っています。

今後とも会員の輪を広げ、この会の発展にご協力下さいますよう節にお願い申し上げます。

宮城県ことばを育てる親の会20周年 記念式典

期 日：平成22年 7月 3日
会 場：大崎生涯学習センター

次 第

進 行 津島弘子（親の会幹事）

- | | | |
|-----------|----------------------------|----------------------|
| 1. 開式宣言 | 県親の会幹事 | 門 脇 み わ |
| 2. 開式の挨拶 | 県親の会会長 | 早 坂 康 宏 |
| 3. 感謝状の贈呈 | 県親の会から 会 長
(補助 県親の会事務局) | 早 坂 康 宏
庄 司 ヨ ネ 子 |
| 4. 祝 辞 | 仙台市立鶴谷特別支援学校長 | 石 野 勝 美 先生 |
| | 元仙台市立貝森小学校長 | 高 橋 さちよ 先生 |
| | 登米市立佐沼小学校長 | 佐 藤 信 男 先生 |
| 5. 来賓紹介 | 県親の会幹事 | 上 野 則 子 |
| 6. 経過報告 | 県親の会事務局長 | 佐 藤 馨 |
| 7. 記念講演 | 講師紹介 県親の会監事 | 千 坂 ふみ子 |
| | 演 題 「親として、教師として、人として生きる」 | |
| | 講 師 前岩手県奥州市教育委員長 | 鈴 木 秀 悦 先生 |
| 8. 閉式の挨拶 | 県親の会副会長 | 高 橋 ゆう子 |
| 9. 閉式宣言 | 県親の会幹事 | 門 脇 み わ |

〈表彰者名簿〉

県親の会より

NO,	氏 名	職 歴
1	千 坂 ふみ子	平成10年～11年会長 監事 平成12年～21年
2	佐 藤 玲 子	平成12年～13年会長
3	伊 東 幹 子	平成9年～10年常任理事 平成11年～17年幹事 平成18年～19年副会長
4	鈴 木 あけみ	平成10年常任理事 平成11年幹事 平成12年～15年副会長 平成16年～19年会長
5	阿 部 とく子	平成12年～15年幹事 平成16年～17年副会長
6	佐 藤 真里子	平成12年～13年幹事 平成14年～17年副会長
7	遠 藤 徳 子	平成16年～17年幹事 平成18年～21年副会長
8	久保江 貴 代	平成16年～19年幹事
9	佐 藤 英 則	平成19年～21年幹事
10	鈴 木 琴 江	平成15年～平成19年幹事 平成20年副会長
11	上 野 則 子	平成4年～21年担任 平成12年～21年幹事
12	小野寺 壽 子	平成15年～平成21年担任と幹事
13	早 坂 清 江	平成10年～平成21年担任 平成16年～21年幹事
14	斎 藤 裕見子	平成14年～平成21年担任 平成20年～21年幹事
15	津 島 弘 子	平成7年～21年担任 平成21年幹事

〈平成22年度役員紹介〉



〈古川言語指導相談室にて〉

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪ 編集後記 ♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

20周年の記念として、親の会の活動をまとめてはどうかという意見が役員会に提案されました。話し合いの結果、予算もなく不安もありましたが、「とにかく作って見よう」ということで始めました。

早坂会長をはじめ、先生方のご協力により、記念誌を発行することができました。会員と先先生方の親の会にかけける熱き想いが記念誌にこめられています。

会員一人でも多く親の会に加入して下さい幸いです。

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

☆☆

表紙題字

ふれあい

元金成養護学校
佐藤 傳

☆☆